

# J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



6月は「雨、雨、降り、降り」の季節です。大人なら「うっとうしいなあ」と思うところを、子供は嬉しい！と感じるんですね。「だって、お母さんが蛇の目傘でお迎えに来てくれるだもの。ぴっち、ぴっち、ちゃっぷ、ちゃっぷ、らん、らん、らん」。北原白秋先生！感動しました。6月は福岡のJSDTで、全国の友人に会えるぞ！おじさんが「らん、らん、らん」と言ったら、ドン引きでしょうか？さて、今月は、稲熊大城先生からのメッセージをいただいております。

## 幹事からのメッセージ

### 「ビタミンDとの出会い」

名古屋第二赤十字病院腎臓病総合医療センター  
腎臓内科・血液浄化療法部  
稲熊大城 先生

私とビタミンDとの出会いはかれこれ20年以上前にさかのぼります。名古屋大学を卒業後、瀬戸物で有名な愛知県瀬戸市にある公立陶生病院で初期研修を始めたわけですが、すでに将来は腎臓内科を専攻しようと決めていました。私自身が小学生時代に急性糸球体腎炎に罹患し、約3ヶ月の入院とその後2年以上の通院をしたこともあり腎疾患が身近に感じたことと腎臓内科は病理、生理、代謝および免疫などあらゆる方面から病態をみることに魅力を感じたからです。腎臓内科医として駆け出しの頃は、ありとあらゆることが新鮮で日常臨床に没頭していました。その当時、他院より透析歴20年の慢性維持血液透析の患者さんが転院してきました。PTHが著明に高く、血清カルシウムとリンも正常上限を上回っていました。恥ずかしながら、それまで二次性副甲状腺機能亢進症についての知識はほとんどなく、ただどうしたらいいのかを勉強し、その病態

の中心のひとつに活性型ビタミンDレベルの低下があることを知り、腎性骨異常症に対する興味がわきあがったと同時にビタミンDに強い魅力を感じたことを覚えています。その後、透析患者さんに対して、活性型ビタミンDの経口パルス療法、さらに静注パルス療法が一般臨床で行われるようになり効果を発揮するようになりました。基礎的な研究から、活性型ビタミンDは核内レセプターであるビタミンD受容体と結合することで機能を発揮すること、ビタミンD受容体はあらゆる細胞に存在することがわかり、カルシウム代謝以外多くの重要な働きが報告されてきました。生命予後とビタミンDとの関連についての報告をみるにつけ、ますますビタミンDが好きになってしまいました。とはいえ、すべての患者さんに活性型を含むビタミンD補充が必要かというFGF23との関連を含め、まだわからない部分が多いことも事実であり、以上の観点から、ビタミンDファンのひとりとして、J-DAVIDの結果に寄せる期待は人一倍であります。



## 最近の文献から

### CKDステージ3におけるセベラマーの心血管系への効果

#### Cardiovascular Effects of Sevelamer in Stage 3 CKD

Chue CD, et al. J Am Soc Nephrol 24: 842-52, 2013

【ポイント】CKDステージ3症例109人を対象に、炭酸セベラマーの心血管系効果をプラセボ対照と比較した40週間のRCT。LV mass, 収縮・拡張機能、頸動脈-大腿動脈PWVに対する有意な効果は認められなかった。80%以上の内服コンプライアンスが確認できた症例（全体の56%）のみでは、尿中P排泄と血清FGF-23レベルの低下が示された。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/23599381>

## 最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(5月20日現在)

## 症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	932	919	815	685	561	364	246	110	45
今月 (前月比)	976	932 (-)	919 (-)	817 (+2)	690 (+5)	586 (+25)	375 (+11)	276 (+30)	128 (+18)	53 (+8)

## 内容確認書(クエリー)回収状況報告

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE(イベント含む)	総数
発行	1136	770	610	620	538	329	259	130	47	7	1029	129	18	91	5713
回収	1135	761	592	583	489	291	206	104	24	7	979	119	18	75	5383
回収率 (%) (前月比)	99.9 (+0.1)	98.8 (-)	97.0 (+0.1)	94.0 (+1.5)	90.9 (+4.9)	88.4 (-1.3)	79.5 (+3.8)	80.0 (+19.1)	51.1 (+4.8)	100.0 (+16.7)	95.1 (+1.0)	92.2 (+4.6)	100.0 (-)	82.4 (+4.6)	94.2 (+1.4)

## J-DAVID事務局からのお知らせ



### 共同研究費(2012年分)のお支払い手続きが全て完了いたしました

共同研究費(2012年分)のお支払い手続きが全て完了いたしました。2013年分のお支払いについては、本年12月にご案内いたします。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

## J-DAVIDデータセンターからのお知らせ



### 第7回イベント評価委員会を開催いたします

6/15(土)に第7回イベント評価委員会を開催いたします。この前後に、重篤な有害事象(イベント報告含む)について情報の追加提供をお願いすることがあります。ご協力よろしくお願いいたします。

### 【再掲】18ヶ月観察までの症例報告書をご提出ください

2013年1月21日時点で、全登録症例の18ヶ月までの観察目安日が経過しております。未提出の症例報告書があるご施設様は、早急にご送付くださいますようお願いいたします。2012年6月および12月に、内容確認書の発行をもって未回収症例報告書の提出依頼をいたしております。お手元に残っている場合は速やかにご確認ください。



編集・発行：J-DAVID研究会事務局  
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科  
代謝内分泌病態内科学 内  
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808  
J-DAVID試験データセンター  
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページが  
リニューアルオープンしました！  
ぜひご覧ください。  
<http://j-david.info/>